

## 第1回豊明市総合教育会議 会議録

日時：平成27年7月14日（火）午後3時00分～午後4時15分

場所：豊明市役所東館4階第2委員会室

### 構成員

|            |   |        |
|------------|---|--------|
| 市長         | ： | 小浮 正典  |
| 教育委員会 委員長  | ： | 兼子 幸夫  |
| 同 委員長職務代理者 | ： | 青山 佳代  |
| 同 委員       | ： | 山下 徳治  |
| 同 委員       | ： | 久留島 夕紀 |
| 教育長        | ： | 市野 光信  |

### 事務局

|        |   |        |
|--------|---|--------|
| 行政経営部長 | ： | 伏屋 一幸  |
| 秘書広報課長 | ： | 平下 義之  |
| 同課長補佐  | ： | 塚田 力   |
| 同秘書担当  | ： | 加藤 久美子 |

### 関係部局

|        |   |       |
|--------|---|-------|
| 教育部長   | ： | 加藤 賢司 |
| 指導室長   | ： | 下出 修史 |
| 学校教育課長 | ： | 堀井 浩二 |

(欠席者なし)

### 1 開会宣言

### 2 あいさつ

市長 本日は、第1回目の総合教育会議です。法律が改正されたことから、会議を開催しました。今後、大綱を策定していきます。制度変更を活用して、教育行政、子どもたち、市民の皆さんにとってプラスになる形でこの総合教育会議を生かしていきたいと思っています。豊明市の教育行政を司っている教育委員の皆様、そして予算の編成、議会への議決権を持っている市長である私、その相互が合意形成することで、

実のある予算編成につながっていければ良いと思っています。議題(3)の学校の規模についてですが、具体的には双峰小学校・唐竹小学校の統合の是非を議論していきたいと思っています。今日明日で結論が出るようなレベルの話ではありませんので、どんなことに留意して今後統合の是非を検討したらいいのかということに留めて、教育委員会でさらに深めて議論していただく流れになるかと思います。それでは、よろしく願いいたします。

委員長 教育政策を色々議論する立場と、予算付けをする市長さんの立場が連動して、教育や生涯学習がより成果があがるようにしていくということでこの会議がもたれるということは有意義なことと思っています。大綱についても、どういう点を大綱に入れるべきなのかというのは明確に私自身持っているわけではないですが、検証をおこない、豊明市の既存の教育基本計画がありますので、全体としてバランスのとれた整合性のあるルールで大綱をつくっていくべきだと思っています。よろしく願いいたします。

事務局 [事務局・関係部局の紹介]  
[資料の確認]

### 3 豊明市総合教育会議設置要綱について

事務局 [要綱について資料1に沿って説明]

委員長 第7条で公開のことが書いてありますが、この第1回目の会議についてインターネットのホームページか何かで開催案内を出されているでしょうか。

事務局 ホームページで開催の案内をしています。この後傍聴の要領を議論していただいたうえで傍聴していただくことを考えています。

市長 緊急で召集するようなことがある場合、会議としての成立要件はあるのでしょうか。

事務局 市長と教育長で会議自体は成立することとなっています。

委員 それは新教育長になってからの話なのか、現状でも成立するというのでしょうか。

事務局 お時間をいただいて、後ほどお答えいたします。

### 4 豊明市総合教育会議傍聴要領について

事務局 〔要領について資料2に沿って説明〕

市長 第3条第3号その他市長において傍聴を不相当と認めるものというのは、傍聴人が守るべき事項を全く守らないような場合のことでしょうか。

事務局 想定できないようなことがもし何かあった場合ということで規定をしている程度だと思います。これは定例教育委員会の傍聴要領も参考にして定めています。

市長 傍聴席というのは、この会議室ならこの部屋に可能な限り入室して満席ということでしょうか。

事務局 会場が固定されていませんので、会場に合わせた形で、基本的には入室できるだけ入っていただくスタンスでいます。

事務局 では（案）を削除して、このような傍聴要領で決定ということをお願いいたします。

傍聴者の入場

## 5 議題

会議の進行が事務局から市長へ移行

- (1) 教育委員会制度の改正について
- (2) 大綱の策定手続き等について

市長 議題(1)(2)について事務局から説明をお願いいたします。

事務局 〔資料3, 4, 5, 6に沿って説明〕

市長 第2期教育振興基本計画は国が定めたものです。今年度内に策定予定である総合計画は、来年度以降の教育行政も含めた市全体の10年計画です。その中の「教育・歴史文化」の8つがここでピックアップされている状態です。教育長と教育委員長はこれをご覧になっていますが、山下委員、久留島委員、青山委員はあまり見ていないかと思えます。どんなことを大綱として考えていかなければいけないのか、ご意見をいただきたいと思えます。お時間を5分ほどとりますのでご覧になってください。

委員 総合教育会議は学校教育のことが中心になると思うのですが、会議出席者を見ても生涯学習課が入っていません。生涯学習課の総合教育会議での関係性がどうなっているのか教えてください。

教育部長 総合教育会議は教育委員会を包括する会ですので、内容としては教育全般になります。今回ここに掲げてあります8つのテーマは教育包括制度ということで私も理解をしています。今回は想定をしておらず、生涯学習課長を出席させていませんが、大綱というのは一番大きなテーマですので、次回からは生涯学習課長も同席させたいと思います。

市長 それでは、会議を再開します。総合計画のめざすまちの姿というのは、大勢の市民からアンケートをとって、そこから抽出された内容を「まちの未来を描き隊」という市民のボランティアグループの人たちが書き連ねていった文言です。それを最終的に議会に提案する前の段階ですが、教育長も参加されている総合計画審議会でも承認いただいているのが現状です。行政経営部長から補足いただけますか。

行政経営部長 今回の総合計画は、市民の意見をできるだけ行政に反映しようという考えで、市場調査をして市民の意見を聴くことが中心となっています。まず中学生から大人まで100人以上の方に10回程度集まっていたいただいて、豊明の良いところや悪いところ、どんなまちになってほしいかというようなインタビューを2時間程度ずつ行いました。そこから色んなアイデアが100人の方から千何個とでてきました。それについて市内2千人の方にアンケートを取り、上位のものをピックアップし、理念と分野で分けてクロスしたものを作って、最終的に40個のめざすまちの姿というものを作りました。そのうち教育委員会に関係するものがここにお示しした8つです。めざすまちの姿に対して、市は大施策を定め、それをやるために中施策、さらにもう一段階、最後に事業へと繋げていきます。それをツリー型ロジックモデルと呼んでいます。事業をやる最終的にめざすまちの姿に繋がっていくといった形で事業を展開し、総合計画を策定していきます。総合計画書の中には大施策と中施策を載せ、小施策や実施事業については、実施計画ということで行政の方で行政評価に使っていく形で管理をしていきます。小施策や実施事業をなぜここに載せないかということ、めざすまちの姿に直結する事業をやろうとしているのですが、ここに載せてしまうと、最終的なめざすまちの姿があるにも関わらず、小さな事業をやるのが目的になってしまうからです。10年間の中で施策や事業はいつでも変えられて、より効果があがるものにするために、ここまでしか載せていません。理念を失わないようにやっというつくりになっています。このめざすまちの姿というのは、市民の方がまさに目指してほしいまちの姿が言葉になって現れています。

市長 総合計画の文言は、どちらかというと子どもが中心のイメージで作っ

ていると思います。文科省が作成している政府側の基本計画は、国家としての統率力を高めるための人材の育成や社会の構築などの点が入り込んでいると思います。それぞれの作る目的が違いますので、これを酌んで作るようにと言われてはいますが、どういう形のものが豊明市の大綱として良いのかを皆さんに考えていただければと思います。

委員 豊明市のロジックモデルの表をみると、主語が子どもに当てはまるものが大半である思いました。大綱に盛り込む時に、資料5にも書いてあるライフステージやコミュニティ全体を縦の軸で一括して見られるような視点での要素が大綱に入ると良いと思います。どうしても教育という子どもという視点を持ちがちですが、皆が長生きしていく中で一生学び続けなければならないということになると、大人も学ぶということも少し要素に入れると皆が関心を持ってくれると思います。あらゆる世代の人がこの大綱に興味を持ってくれるような要素をいれると良いと思います。子どもにはいじめや児童福祉、貧困などの問題がありますが、長い目で見ると、守っていかなければいけない大人もいます。「豊明市は人を育てるための教育の要素を入れています」ということを活用したら良いと思います。このロジックモデルだと子どもが主になっているので、もっと大人が生きていくための生涯学習に関しても面白い要素を入れると、厚みが出て良いものになるのではないかと感じました。

委員長 市民全体ということで考えると、一生明るく豊かで過ごすということの基礎として子どもの教育があります。大人になってからの教育の要素として、生涯学習の文言も入れていくのがふさわしいと思います。いくつになっても学び続けるという意識をもっていると、豊かな人生を送るのに資する力になると思います。

委員 国の方針と豊明市のロジックモデルを比較すると、基本的に社会を生き抜く力の養成が網羅されていると思いますので、大まかには良いと思います。市民や地域の声を聞くと、地域力の低下を感じるので、子どもの教育に関して地域をリンクさせる方法があれば良いと思います。文句は言うけどやらない、ではなく、市民的なレベルで教育を盛り上げていく方向で、生涯学習にも学校教育にもなる連携が取れば一番良いと思います。大人も子どもに興味を持つ、子どもも大人から教えてもらえるという形をもっと市のレベルでできれば、生涯学習と学校教育を分けずにお互いにとって上手くリンクできる気がします。教育委員会がやっている放課後こども教室の市民参加などをもっと充実させて、リタイアされた方も子どもと接して楽しいし、子どもたちはそ

ういう方達から昔のことなどを学ぶことができるシステムを大きくして地域全体でやっていけば、豊明は住みたい町になっていくと思います。少し地域が希薄になっていると感じるので、市が盛り上げていく方法を盛り込んでいただければと思います。

委員 子どものことが主なので、大人の意識が子どもにもう少し関わってけると良いと思います。保育園の子どもが雑音だと言って問題になったことがあります。子どもに対する意識がきちんとあれば、普段生活する声が雑音だとは感じないと思います。子育て中の親、お孫さんがいる世代の方は理解できると思いますが、それ以外の方には難しいのかもしれませんが、しかし、大人が次の子どもたちを育てていくので、大人の存在はとても大切です。諸先輩方の専門性が次につながっていくのではないかと思います。

委員 私は子どもが小さいときから色々な場面で地域と関わる機会が多かったです。子どもとたくさん話していると、大人も子どもも顔見知りになりますので、地域の住民として、隣のおじさんとして子どもに平気で注意ができます。そういう地域性が今だんだん希薄になっているような気がします。学校の敷居を低くして、知り合いになるということを活発化していかないと、地域をあげての生涯学習や学校教育にはならないと思います。チャンスをいかに作るかが大切だと思います。

教育長 めぐすまちの姿は、子どもがというところが非常に目立ちますが、すべて大人がすることになっています。市役所、地域、家庭がすることかもしれません。大人が子どもに対してどれだけ心を砕くか、それには知識と学ぶことが必要になります。大人が何をするのか、どう心を砕くのかということが裏にはあると捉えることができると思います。見えない背景として大人が裏側にいて、それがないと成り立たないのです。

委員 それに加えて、良い子達が育ったあとに大人自身がどう動くかという生涯学習的な要素も考えたらどうかと思います。子どもの頃に良い思いをすれば人はどんどん学び続けたいと思うので、それで終わりにならないように関わっていければと思います。

市長 大人が学び続ける中のひとつが、子どもとの関わりや地域でのつながりです。地域全体として子どもを育てるという土壌ができていけば、連続性もさらに高まっていくと思います。その視点が残念ながら今時点の総合計画にはなく、あったとしても別のところにあるということです。

行政経営部長 教育歴史文化の中では触れられてないですが、地域の安全安心という

ところで、子ども達をどう犯罪から守るかというときに、地域のコミュニティが非常に大事なので、地域の防災力・犯罪抑止力の向上に関するロジックができています。それに関する成果指標もいくつかあって、3年後にアンケートをして実際に計画通りにあがったかどうかを観察しながら、次の政策を考えていきます。次回、教育歴史文化以外の住民共同・地域力関係については資料をまたお渡しします。

委員 具体的な行政の施策として豊明に一番足りないのは、人的な数です。ソーシャルワーカーや補助教員の数などは確実に多いほうが良いに決まっています。行政は予算内で動かなければならないので満額回答というのは無理ですが、市長も日々の教育にお金を使ってはどうかということだったと思います。もうひとつ、指導室の充実など、そういうことがあっての地域との連携でなければならない。地域に任せきりにならないようお願いしたいです。

市長 各委員の発言はすべて絡みあっていることなので、意見を汲み取り、総合計画、国の教育振興基本計画とマッチさせたいうえで大綱の作成につなげていきたいと思っています。

(設置要綱に関する質問の回答)

事務局 先ほどの市長と教育長だけで会議をもつことが可能なのかということでしたが、これは今の教育長でも適用されます。根拠としては、この会議は全員出席が大原則ですが、緊急時召集する時間がない場合に常勤の教育長と市長で会議開催が可能とされているからです。

(3) 学校の規模について

市長 続いて、議題(3)学校の規模についてです。具体的には双峰小学校と唐竹小学校の統合の是非について検討していきたいと思っています。第一に、統合するというのは結論ではありません。統合しないという結論も当然ながらあります。第二に、統合するとしてもどちらの学校を利用するのか、あるいはどの時期が一番ふさわしいのかといった問題が生じてきます。今日は統合の是非を検討していく中で、どんなことに留意していけばいいのかということ色んな資料を事務局に提示してもらって、そのうえで各委員の皆さんから意見をいただいて、今後の教育委員会での議論につなげていきたいと思っています。そして次の総合教育会議でさらに議論を進めていくという形でいきたいと思っています。では資料について事務局から説明をお願いします。

学校教育課長 [資料5, 6, 7について説明]

市長 大宮小学校が12クラスになるというのは、こういった形で推移するのでしょうか。

学校教育課長 大宮小学校は今9学級です。28年は10学級、29年が11学級、30年～33年は12学級で推移いたします。

市長 唐竹小学校と双峰小学校、唐竹小学校と大宮小学校というのは外の小学校間と比べて非常に距離が近いです。この3小学校のクラス数が今少ないですが、大宮小学校は榎山台の開発が絡んで、学級数が増える予定になっているという報告がありました。資料にはクラス数が少ない場合のデメリットについても書いています。これについては色々な考えがあります。考えていただきたいのは、子どもの教育環境はどういった状態が適正なのかということが第一です。二番目として、将来的に公共施設を今現在の形では全部維持することはできないので、全体として3割縮減していかないといけないということです。多くは学校施設なので、学校の教育内容を維持するためにも統合を検討せざるを得ない時期がいずれ来ます。両方を踏まえて考えていただきたいと思います。

委員長 私は小学校4年生の時にクラス替えができない環境からできる環境へ変わりました。1クラスの時代は、すべての子どもと親しく濃密に接触するという感じが強くありました。平和で落ち着いた感じもありました。4年生からは活性化し、世界が変わったという感じを持った記憶があります。クラス替えの時には対人関係が変わってインパクトがあり、エネルギーにやらなくてはいけないという感じを持ちました。1クラスという環境で落ち着いた学校文化ができて、濃い個人個人を見る教育ができるというメリットを強調される方もいますが、2クラスになると変化があり、子どもの教育にとっては好ましいと思います。

市長 資料7の8/47頁、①～⑨に書かれていることは、教育委員長の言われたことと大体同じことになっていると思います。教育の内容面以外でも色々なことに留意しなければならないですが、皆さんの中で、ここに留意いけないという意見はありますか。

委員 平成24年当時は、唐竹小学校と双峰小学校は結論的に言えば、教育委員会が答申を受けて、地域住民のご意見によってそのままという形に落ち着きました。その後教育委員会の中でも、環境や情勢が変わるので、見直しを定期的におこなっていかなければならない課題であろうと当時教育長とお話をした記憶があります。ここにきて総合教育会



議の議題にあがったので、再検討に入る時期なのかと個人的に思いました。良し悪しについてはその時の委員会でも賛否両論ありました。当事者の地域住民の意見は、現状が良いというのがほとんどです。高い立場から語れる方からは、子どもの環境が固定化されるより、多様性のある時代では刺激がある方が良いという意見があります。良し悪しが色々ありますが、子どものためにどちらが良いかを考えると、たとえば物事を作り上げるのにも複数学級の方が大きな成果があげられるだろうと個人的には思います。

委員 豊明団地ができて人口が増えたときには学校を増やし、減ったときには統合をすると考えられがちですが、子どもを育てるということには大人も関わっています。たとえば大宮小学校では、その地域の方がものすごく温かい目で関わっています。その道でやってきた方が自分のノウハウを活かして、地域の学校に関わって子どもを育ててくれています。子どもを育てるといことは地域の関わりが必要なので、単に学級数の問題ではなく、大人が地域と社会に関わってもらうという意味で、学校は現状そのまま残して小規模ならではの学校に関わっていく大人も必要だと思います。子どもを育てるには、先生プラス地域の方でやっていくことが必要です。残していくと、地域の方も関わられる場が増えて子どもも育っていきます。単に合理的に学級数のことだけではなく、豊明はこれからのことを考えて、生き生きと大人も学ぶには、今の小規模のまま大人も関わっていくという形が必要だと思います。

委員 地域を大事にしたい、子どもが少ないという点で特色のある学校を望まれて小規模校が良いという意見と、公教育の中ですべての子ども達と同じ条件で教育を受けることが大切という意見の両方の良いところ取りができればと考えています。例えば、小規模の学校だったら生き抜ける子もいるので、その子達のための学校をひとつ残すとか。大きすぎる学校だと自分を発揮できる場が少ないだろうと思います。今後子どもの数は確実に減っていき、学校は余っていくので、学校の数については考えていかなければならないと思います。私自身は小規模の小学校からクラスがたくさんある中学校に上がりましたが、1年生の時は自分を発揮することができませんでした。大規模学校からきた子の方がたくましく感じました。皆が同じ数の中で育てば、小学校からのギャップもなくなり、同じステージであがっていけると思います。それでも上がっていけない子に関しては、小規模校で発揮できる子だけを固めるなど、色々な多様性を持って考えると良いと思います。地域

ではなく、その子に合った特性を持った学校をつくるという別の視角も必要だと思います。家族が多様化し、子どもが色々な特性を持つ中で、場所や数ではない視角を大事にすると面白いと感じました。

委員 二者選択となると、両方に特徴があるので、良し悪しのイメージはつけがたいと思います。私は子どもがたくさんいる環境で育ちました。将来グローバルな社会を生き抜く力というのを考えると、合理性ではなく、ある程度の抵抗や障害がある複数学級の中で育てたほうが良いのではないかというのが私の考えです。市長部局から言えば、合理性も入ってこなければいけない要素だとは思いますが、そうではなく、複数学級の環境の方が将来子どものために良いのではないか、合併しても双峰小学校と唐竹小学校の地域性を考えると、ご理解いただける範囲なのではないか、と考えます。

教育長 地域の方の学校参加は教育的に目指していきたいところです。子どもの教育環境は一義的には教員だと思っております。ここがきちんと機能しないと子どもにとって良くないと思います。小規模校の唐竹小学校には今教諭が12人いますが、そのうち8人が女性、男性が4人です。資料7の8/47頁の①のことが唐竹小学校には現れているような気がします。また⑦にあるように、育み教える教員の資質・力がつかなくなってくるのでは、という気がします。指導室長は3月まで唐竹小学校の校長として勤務されており、大規模校の中央小学校にもおられましたので、①と⑦について両校を比較してどうなのか、実情を教えてくださいませんか。

指導室長 唐竹小学校の男女比のバランスについては、担任がほとんど女性の先生だったということは事実ですが、女性男性関係なく教員という立場で教育活動に関わる分に関して、アンバランスさは感じなかったです。それなりに機能していたと思います。ただ⑦については、事実です。校長が留守番をしないといけなかったり、出張先からすぐ帰ってこなければいけなかったりという事実がありました。先生の数が少なければどうしても難しい点があったと感じていました。

委員長 中学校は小学校に比べて色々問題が多くある年代だと思います。小規模小学校から来た子と大規模校から来た子を比べて、不登校など、耐性の強弱について指導室長は感じることはありませんか。

指導室長 大規模校には色々なお子さん・ご家庭があり、不登校がないように目指してやっていますが、実際に中学校に上がっていったときに不登校になる子がいました。家庭へのサポートや子どもたちの把握がしっかりできていなかったのかと感じました。小規模校では、不登校にな

る子はいませんでした。理由を考えると、小規模校では先生と密接な関係ができていたからだと思います。先生を信頼するような関係ができていれば、中学校でも子どもにとって先生は信頼できるものと判断できるようになると思います。それがひとつの大きな良い点だと思います。

市 長 大宮小学校のクラス数のことも考えながら、双峰小学校と唐竹小学校のことを考えていきたいと思います。どういった形が子ども達にとって最適なのか、10年15年くらい先まで見据えたうえで一番良い方向を見出していきたいと思います。

委員長 第4次総合計画は今年度が最終だと思いますが、トータルの期末評価は計画されているのでしょうか。教育分野に関するところに関して過去10年の振り返りをなされるのであれば、最終評価のレポートも参考になるのではないかと思います。

事務局 本日市民アンケートの結果を幹部会で報告しましたが、それが住民の市に対する評価であると考えています。教育文化についての評価も、5年前、10年前、今と比較したものがあります。それによって判断をしていこうと思っています。教育については期待値が高いだけに満足度はあまり高くありません。小中学校区ごとに市民のみなさんがどうお考えになっているかがわかりますので、また資料をご用意いたします。

市 長 学校の規模については、今日色々な形で教育委員の皆さん、指導室長に頂いた意見や他の資料も踏まえたうえで、教育委員会で深く議論していただければと思います。今日の議題についてはこれで終了です。

事務局 〔事務連絡〕

市 長 閉会宣言